

## 瀬 祭

戸堂博之

お酒の好きな方なら、山口県岩国市瀬越(おそごえ)の銘酒「瀬祭」のことと思われるだろう。瀬越は瀬(カワウソ)が化けて、子供を騙したとゆう故事による地名とか。瀬は獲った魚を岸に並べる習性があり、まるで祭りのお供えのように見えるところから、「瀬祭」。即ち、詩や文章を作る際に、資料や文献を散乱さすことをもさす、とある。

これを引用した銘酒は、あんな難しい字にも拘らず、プレミアが付くほど売れている。

俳句初心者の私は、中野陽典さんから季語を学べとのことで、『歳時記』をくり始めた。「子規忌」が目飛び込んで来て、これが季語になる？ 調べれば、9月19日没、秋の季語、「糸瓜忌」、「瀬祭忌」とも。子規は若くして結核に罹患し、枕元に本が散乱して、瀬祭状態で弟子を指導したことが判明。今後、酒を飲む機会にはでっかい肴が出来たと喜んでいる。

嘗て、『庭球語り部』を上梓した時の話。テニスとベースボールがほぼ同じ明治初期に入ってきて、ベースボールは「底球」と訳されていた。どうも不具合で、ベースボールは男らしいから「野球」、テニスは庭でできるので「庭球」になったと『東大野球部誌』に記載されている。

他方子規の聖地松山では、東大時代に野球が大好きだったので、本名正岡升(野ボール)に由来すると信じられている。これは中学同期生で松山在住だった文学女史の故松浦渚さんから、『庭球語り部』を読んだ直後に紹介された話だ。

ベースボール(子規没の1903年頃までは野球と言わなかった)に因んで子規が詠んだ句は

夏草やベースボールの人遠し	子規
たま投げて見たき広場や春の草	子規
テニスにも関心を持っていたようで	
蒲公英やローンコート線の外	子規
以前はテニスをローン(芝)テニスと言った	

俺も一句、

瀬祭忌野球は本名「升」(ノボール)因り 博之

靴もなく、草鞋を履いて始まった昔の話であった。